

# WAKABA

突撃！となりの仕事人

## 自然写真家

特集 読書感想文おすすめ本

### 編集後記

YAのみなさん！いつもWAKABAを手にとりてくれてありがとうございます。夏休み前は学校行事や定期試験などで何かと忙しいと思いますが、息抜きがてら図書館にも来て下さいね。  
(編集:A・K)

暑くなってきましたね。むしむしする空気が苦手な人は多いと思います。湿気は本にとっても困りもの。本は湿気を吸うと、膨らんで元に戻りません(涙)ビニール製の袋などに入れて持ち運ぶようにすると、急な雨の日も安心ですよ♪  
(編集:S・T)

6月といえば高総体シーズン。みんな自分の実力を発揮できたかな？私はずっと文化部だったので出場した事はないですが、同じ学校の生徒同士が団結して、勝負の行方に一喜一憂しながら応援するのも楽しかったな。あの一体感はずいと思う。みんながんばれ！！  
(編集:C・F)



### #YAコーナーからお知らせ#

**特集テーマ「読書感想文おすすめ本」**  
読書感想文に役立つ本を集めました。読書感想文の宿題がいつも最後になる人、今年は先手必勝を狙おう！

**投稿テーマ「Bookmarker(葉)コンテスト」**  
葉のイラストコンテストを行います♪たくさんの投稿、お待ちしております☆

**※蔵書点検に伴う休館期間**  
6月9日(木)~14日(火)

**#図書館を利用するみんなにお願い#**  
※宿題や試験勉強などの自習はスタディールームを利用しましょう。  
図書館の閲覧席は読書や、図書館の本を使って調べものをする方のために用意している席です。  
館内の閲覧席やグループ学習室での自学自習はご遠慮ください。なお、図書館は玄関前も含めて建物・敷地内ではレストランを除き飲食ができません。

「WAKABA」第28号(YA通信/6・7月号)  
表紙の写真:眼鏡橋周辺 発行:YA編集部  
Nagasaki City Library,2011

# 突撃となりの仕事人



今月のお仕事  
自然写真家

仕事人ファイル:8  
まつもと のりお  
松本 紀生さん



5月28日に長崎市立図書館でフォトライブショーが行われた、自然写真家・松本紀生さんにインタビューしてきました。1年の半分以上をアラスカで過ごし、写真を撮り続ける松本さんの言葉をお届けします。

YA:どうしてこの仕事を目指したのですか？

やりたいことをやって生きよう、と思い、それを探している最中に写真家の故星野道夫さんの作品に出合ったことがきっかけです。

YA:お休みの日は何をしていますか？

家族と外食したり、買い物をしたりしています。日本に帰っている時しか会えないので、家族と過ごす時間を大切にしています。

YA:このお仕事のやりがいは何ですか？

心の底からきれいだと思うものを精一杯追いかけ、それを写真という作品にする行為。これによって深い充実感を感じられます。さらに、その作品をたくさんの人にみてもらって喜んでもらうこともできる。自然写真家は素敵な職業です。

YA:お仕事に就ききっかけになった本や、中高生にオススメの本、音楽などがあれば教えてください。

きっかけになった本は星野道夫『アラスカ光と風』です。僕は中学校1年生の時からさだまさしの大ファンです！さださんの曲がオススメです！大好きな曲ばかりですが、『風に立つライオン』という曲は中高生のみなさんに特にオススメです。

YA:このお仕事の大変なところは何ですか？

自然相手なので、動物も風景もこちらの思うようには動いてくれない。シャッターチャンス待つ時間が気の遠くなるほど長い、というところです。

YA:もし、この仕事についていなかったら、何の仕事をしていたと思いますか？

警察官かな？落語家もいいけど、難しいかな。

YA:最後にこの仕事を目指す人たちにメッセージをお願いします。

あきらめずに自分が撮りたいと思うものをとことん追いかけてください。



「アラスカ無人島だより」  
松本 紀生/著  
教育出版 Y/295.3/マ  
(¥1700)

「アラスカ光と風」  
星野 道夫/著  
福音館書店  
295/ホ (¥1359)



「離れて過ごす時間が長いからこそ、家族をより大切に思える」と仰る家族思いの松本さん、お忙しい中さくくインタビューを受けてくださり、ありがとうございました！  
次回の「仕事人」もお楽しみに♪

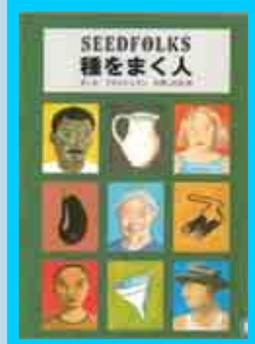
読お

書す

感す

想め

文本



「種をまく人」

ポール フライシュマン/著 片岡しのぶ/訳  
あすなる書房 Y/933.7/フ (¥1200)

アメリカの貧民街の一角にあるゴミ溜めと化した空き地。ある日、ベトナム人の少女がその空き地にマメを蒔いたことが、全ての始まりでした。街に住む人々はそれぞれの思いを抱えながら、空き地を耕していきます。畑を通して、人々が交流し、変化していく様子がそれぞれの視点で描かれています。

「ハートボイス いつか翔べる日」

青木 和雄/作 水野 ぷりん/画  
金の星社 913/ア (¥660)

小学校1年生のとき、不登校になってしまった主人公。そして彼のまわりの様々な悩みを持った友人達。様々な苦しみを抱えた子ども達の心の声は、誰に届くのでしょうか。子どもを傷つける大人もいるけれど、大木のように見守り、導いてくれる大人もいます。様々な問題を乗り越えて成長していく少年達の物語です。



「本からはじまる物語」

阿刀田 高/著 有栖川 有栖/著 いしいしんじ/著 石田 衣良/著 メディアパル  
Y/913.6/ホン (¥1300)

豪華執筆陣が「本屋」「本」をテーマにした素敵な18のストーリーを集めた短編集。

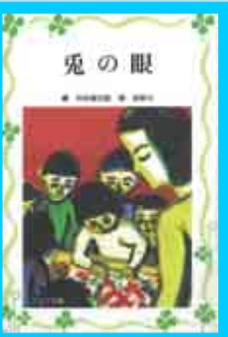
どんな本の題名を言っても、次の日には必ず用意してくれる本屋のおばあさん、空飛ぶ本や、本屋に残された本の暗号など、本の魔法がつまった1冊。短編集なので読みやすく、たくさんの物語に出会える「本」です！！

「兎の眼」

灰谷 健次郎/作 長 新太/画 理論社  
Y/913.6/ハイ (¥1000)

お嬢さん育ちで新米教師の小谷先生は、何を考えているか分からない小1の鉄三にとまどいます。「ああいう子にこそタカラモノはいっぱいつまっている」という先輩教師のことばから、鉄三に寄り添って、その目に映るものを一緒にながめはじめます。

涙を浮かべた赤い眼に映る、たくさんの「タカラモノ」をあなたも一緒に見つけてください。



「アーサー王と円卓の騎士」

ローズマリ サトクリフ/著 山本 史郎/訳  
原書房 M/933.7/サ (¥1800)

イギリスに伝わる伝説の英雄・アーサー王。そして、彼のもとに集った円卓の騎士たち。彼らが如何にして生まれ、そして死んだのか。その波乱に満ちた数奇な運命を描いています。

力強く洗練された文章で、男女問わず人気のあるサトクリフの代表作！



「永遠(とわ)を旅する者」

ロストオデッセイ千年の夢  
重松 清/著 講談社 F/913.6/シゲ (¥1600)

千年もの間、死ぬことのない身体で旅を続ける戦士・カイク。ある時は戦争に身を投じ、またある時は愛する人と静かに暮らし…。自分より短い命を精一杯生きる人々との出会いと別れを幾度も繰り返す彼の姿に、あなたは何かを感じるでしょうか。



「清く香しく」

法頂/著 河野 進/訳  
めるくまーる 188.8/ホ (¥1900)

『大切なことは、どれだけ長く生きるかではなく、与えられた人生をどのように過ごしているかである(本文より)』

たくさんものや情報であふれている現代で、何が必要なのかを考えることができる一冊です。



キラリ作家☆  
フィリップ プルマン

「マハラジャのルビー」

フィリップ プルマン/著  
山田 順子/訳 東京創元社  
Y/933.7/フ (¥2200)

得意なことは射撃と、経営学という風変わりな少女サリー。父親の死後、奇妙な手紙が届き、サリーは、事件に巻き込まれていきます。

様々な事件が繋がっていき、最後の答えに辿り着くまで目が離せません。



「花火師リーラと火の魔王」

フィリップ プルマン/作  
ながわ ちひろ/訳 くすはら 順子/挿画  
ポプラ社 933/プ (¥1000)

父親のような花火師になりたい少女リーラ。しかし父親は、花火師になることにいい顔をしません。花火師の資格を与えるため、家出したリーラは、魔王の住むメラピ山を目指します。ユーモアいっぱいの冒険物語。



作家紹介\*

1946年イギリスのリッジ生まれ。オックスフォード大学卒業後、英文学の講師を務めながら小説や戯曲を執筆。

映画化された、ライラの冒険シリーズの第1巻「黄金の羅針盤」でカーネギー賞とガーディアン賞を受賞。第3巻の「琥珀の望遠鏡」ではウィットブレット賞児童書部門と最優秀賞を受賞するという快挙をなしとげました。



「黄金の羅針盤」

フィリップ・プルマン/著  
大久保 寛/訳 軽装版 ライラの冒険  
新潮社 Y/933.7/フ (上・下巻¥950)

両親を事故でなくしたライラは、おてんばな11歳の女の子。彼女のまわりで立て続けに子どもが連れ去られてしまいます。北極で何かが起きていることを知ったライラは旅立ちますが…。